



Vol. 85

## CONTENTS

【コラム】高等学校共通教科情報科の変遷と課題… 中野 由章

【解説】電気通信大学における「コンピュータリテラシー」科目… 久野 靖

【解説】全国 KOSEN 支援機器開発ネットワーク (KOSEN-AT) による AT 技術者育成の取り組み… 清田 公保

## COLUMN

### 高等学校共通教科情報科の変遷と課題



我が国の高等学校に教科「情報」が新設されたのは、2003 年度である。普通教科（現共通教科）と専門教科が設定され、普通教科は情報活用の実践力を中心に学ぶ「情報 A」、情報の科学的な理解を中心に学ぶ「情報 B」、情報社会に参画する態度を中心に学ぶ「情報 C」の 3 科目が設定された。この中から 1 科目を選択必修するのだが、生徒の自由意思ではなく、学校側が科目指定を行うという状態が一般的だった。全国の高等学校における各科目の開設状況は、「情報 A」が約 80% であるのに対し、「情報 B」はわずかに 5%、「情報 C」も 15% 程度にとどまるなど、「情報 A」に偏重していた。

その後、2013 年度から施行されている現行の学習指導要領において、共通教科情報科は、「社会と情報」と「情報の科学」の 2 科目に再編された。「情報 A」に相当する科目が消滅し、「情報 B」を「情報の科学」に、「情報 C」を「社会と情報」に発展させたような位置づけとなった。しかし、学校側が科目指定を行うという状況に変わりはなく、「社会と情報」が 80%、「情報の科学」が 20% 程度という開設状況にある。

また、情報科の担当教員問題は、情報科が新設されてから十数年経たにもかかわらず、改善されるどころかより劣悪な状況になっている。全国の情報科教員のうち、情報科専任はわずか 20% 程度であり、約 50% が他教科との兼務、残る約 30% は情報科の教員免許を持たない免許外教科担任や臨時免許で指導している。

学習指導要領改訂の第 3 ステージとして、2022 年度から施行される次期学習指導要領では、必修科目が「情報 I」に一本化され、さらに、発展科目として「情報 II」が設定された。

#### 「情報 I」

- (1) 情報社会の問題解決
- (2) コミュニケーションと情報デザイン
- (3) コンピュータとプログラミング
- (4) 情報通信ネットワークとデータの活用

#### 「情報 II」

- (1) 情報社会の進展と情報技術
- (2) コミュニケーションとコンテンツ
- (3) 情報とデータサイエンス
- (4) 情報システムとプログラミング
- (5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究

端的に言えば、情報の科学的な理解に大きく重点を移し、現行の専門教科情報科で扱っているような深い内容のものも幅広く取り入れられた。

他教科との兼任や情報科の免許を持たない教員に、これらを適切に指導できるのか、非常に心許ない。この状況を改善するためには、大学における教員養成、教育委員会における教員採用、さまざまな現職教員研修などの、教員を取り巻く環境の改善・支援や、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用した実習を効果的に取り入れるために必要な情報機器やネットワークなど教育環境の改善が必須である。

中野由章(神戸市立科学技術高等学校)